

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

誇りと喜びを持てる学校

～夢にむかって チャレンジ！ そしてあきらめない心をたいせつに～

友達を大切にする子ども

勉強やスポーツに一生懸命取り組む子ども

自分の目標に向かい あきらめないでチャレンジを続ける子どもを育てる

1. 安全で安心して生活できる学校

(1) 豊かな人間性と人権感覚にもとづき、ひとりひとりの教職員と子どもたちが人権課題の解決に主体的に取り組む、人権が尊重された学校をめざす。

(2) 子どもたちの命と健康を守るため、災害や感染症等に備え、事前のリスクマネジメントと危機管理に強い学校をめざす。

2. 「確かな学力（学習への意欲や主体性、課題解決力）」を伸ばす学校

(1) 聴覚障がいの特性にあわせた教育活動を充実し、子どもたちの個性や能力等を最大限伸ばすことをめざす。

3. 多様な就学・進路選択の実現

(1) 聴覚障がいの状況や本人、保護者の要望等に応える充実した進路指導をめざす。

(2) 幅広い進路選択に向けたキャリア教育の充実。

4. 聴覚障がい教育の高い専門性を有する学校

(1) 深い幼児児童生徒理解に基づく指導により、個々に応じた聴覚障がい教育を充実。

5. 組織的なセンター機能による地域支援

(1) 地域のニーズに基づく適切な支援活動により、地域（就学前、幼・小・中学校）における聴覚障がい教育の支援機能を果たす。

6. 校内外の有機的な連携による学校運営

(1) 的確な学校情報の提供とPTAとの連携による保護者の参画した学校運営をめざす。

(2) 幼稚部、小学部、中学部の一体的な学校運営をめざす。

2 中期的目標

1 安全で安心して生活できる学校

1) 人権意識の向上と人権尊重の実践力の向上

ア きめ細かなコミュニケーションと深い子ども理解、組織的な指導体制による“体罰の根絶”。

イ いじめ予防プログラムの導入等、積極的な予防策の推進と、不適切な行動や人間関係のゆがみの初期段階での対応力の向上を図り「いじめ ゼロ」を達成する。

2) 防災対策の充実

ア 大規模災害に機能する地域連携による緊急時ネットワークを構築する。

イ 災害時校内初期避難に係る備蓄物品の完備と津波（浸水）を想定した設備配置を確立する。

ウ（・安否確認等の緊急時の連絡通信方法を整備する。）

ウ 校内の文字情報システムを整備（未設置教室、未設置特別教室に設置）し、緊急対応力を高める。

3) 健康安全の徹底

ア 感染症、熱中症予防及び食物アレルギー対応に係る実効性のある全校的な管理体制を強化する。

4) 教育コミュニティづくりの推進

ア IKUNOネイチャーランドの活動を再検討し、地域との交流、連携を推進する。

2 学力の保障と向上

1) 学校経営推進費を受け ICT を整備・活用し、視覚を大切にした『見て、感じて、実現へ～聴覚障がい児への情報保障及び日本語力・学力・生活力の定着』をめざし「見てわかる授業」づくりを推進する。

ア 全教室に据え置き型の電子黒板・書画カメラを整備する。

イ 校内無線 LAN の教室への配備率を100%にするとともに、全教室に PC を整備する。（現状 約 50%）

ウ 全教科のデジタル教科書を配備し、ICT 活用の授業効果を最大限に高める。

2) 各種コンクール等への“一人ひとつチャレンジ”を達成・定着し、幼児児童生徒の学習意欲を向上させる。

3) 蔵書管理システムを図書館以外にも全校化し機能充実させるとともに、読書推進計画を策定し、児童生徒の読書活動を活性化させる。

3 就学進学への接続点での支援の充実とキャリア教育の充実

1) 幼稚部、小学部、中学部の進路選択に関して、卒業後のアフターフォロー等により進路先情報の集積と分析を図り、教育相談機能を向上させる。

2) 幼稚部、小学部、中学部で系統的なキャリア教育を構築するとともに、体験的な活動を拡充する。

4 聴覚障がい教育の専門性を高め、教員の資質を向上させ人材を育成する。

1) 授業研究、校内研究会を推進し外部研究会、研修会へ積極的に参加するなど、専門性の高い人材を育成する。

2) ICT 活用能力、教材開発を進め教員間での授業研究、日常的に研修・研鑽を進め授業力を高める。

5 いくの聴覚言語センター（IDIC アイディック）の機能を整備し、地域支援・保護者支援を充実させる。

1) 通級指導教室を充実させ地域支援のニーズにこたえる（巡回指導、相談、理解啓発授業の実施）

2) 地域支援部と連携し 地域支援・保護者支援に努める。

6 交流をキーワードにした学校運営の改善

1) ニーズに基づく情報発信を再構築（内容、媒体の整理）し、学校の情報発信力を高める。

2) 学部を超えた交流事業の拡充と学部を横断する業務の校内組織の見直しを図り、効果的効率的な学校運営で教育活動の質を向上する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>保護者の回答率が80%に上昇。学校教育に対するニーズの高さを表している。</p> <p>【児童生徒】肯定率は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのは楽しい(小85% 中76%)・仲の良い友達がいる(小95% 中85%) ・行事は楽しい(小91% 中73%)・先生はみんなが仲良くできるように考えてくれている(小84%)・地震や火事が起こったときのような行動をとればいわかりやすく知らされている(中92%)等学校に来るのは楽しいと受け取れる。勉強はわかりやすく楽しい(小74% 中65%)については常に向上をめざさなければならぬ。肯定率は小中学部ともに少しずつ伸びている。 <p>【保護者】肯定率は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は教育方針や課題をわかりやすく伝えている(82%)・子どもは学校へ行くことを楽しみにしている(94%)・学校は子どもの課題にあった授業をしている(88%)・学校は子どもの聴覚障がいの状態を理解している(90%)・学校は安全面で施設、設備の環境整備を行っている(92%) ・学校の授業参観や学校行深参加したことがある(97%)平均が87%と少し上昇した。一番低かった進路について(77%)の取り組みを進めていく。 <p>【教職員】肯定率は・本校は体罰防止に取り組んでいる(98%)で保護者の肯定率(91%)よりやや高い。今後もともに90%以上をめざしていく。</p>	<p>第1回 平成28年7月14日(木)</p> <p>○今年度の学校経営計画について ・協議会委員の意見が反映し具体的になっている。・安全安心な学校の拡大体罰防止委員会に参加し、丁寧な取り組みがわかった。保護者の参加が良い。・幼小中一貫校としてとらえ、一つの学校として推進していくことが大切。・学力向上にICT活用を期待する。○平成28年度使用教科書選定について報告</p> <p>第2回 平成28年度11月24日(木)</p> <p>○学校教育自己診断の結果報告 ・診断結果をまとめ協議会を重ねて公開し、成果が表れてきている。全体的に肯定率の上昇。学校全体が良い方向に動いていると感じる。</p> <p>○学校経営計画の進捗状況の報告</p> <p>第3回 平成29年2月21日(水)</p> <p>○学校教育自己診断の結果総括 ・保護者の声に適切に対応しているのがよくわかる。保護者が学校にいろいろ聞くことができるのは信頼関係ができてきているということ。・進路キャリア教育部ができたことは良い。幼・小学部の保護者が高等部を見学し、子供の将来像を見るのは良い取り組み。保護者の期待に応えている。・トラブルに対しての先生方の対応は努力を感じる。</p> <p>○学校経営計画の自己評価についての報告</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
安全で安心して生活できる学校	<p>(1) 体罰防止いじめ防止等 人権侵害に関して教職員の意識を向上させる</p> <p>(2) 地震・津波等 防災対策の充実 ア 災害時の地域連携を進める</p> <p>イ 情報確保に取り組む</p> <p>ウ 防犯教育に取り組む</p> <p>(3) 地域社会と連携を深め地域の幼稚園、小学校と交流を深める</p> <p>(4) 感染症・熱中症対策、安全な給食をめざす</p>	<p><u>ア 体罰防止対策の組織的な指導支援を推進する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 指導上の問題点を定期的に学年団で共有し、サポート体制を確立するとともに、体罰防止委員会で学部を越えた支援を充実する。 <p><u>イ 系統立てたいじめ予防を積極的に進めるため、発達段階に応じた「学習プログラム」(傍観者をささない、個性の理解、感情のコントロール等)の導入を検討する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ防止教職員研修の実施 不適切な行動や人間関係のゆがみの初期対応力の向上を目的とした研修を実施する。 <p><u>ウ 体罰防止・人権研修の実施(4回)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 事例検討研修 ・参加型研修 ・生徒指導力向上のための研修等を実施する。 <p><u>エ 問題事象の早期発見活動の着実な実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 体罰セクハラ届出票の対応(通年)、体罰防止チェック票の活用(年2回) <p><u>ア PTA防災委員会と連携し防災対策を推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ヘルプミーカード(電話お願い手帳)の活用を促進し児童生徒向けの活用方法講習の実施 備蓄物品の充実(生活用品)と備蓄場所の再検討する 地域防災組織と連携し、地域防災活動への学校からの参加連携を進める。 緊急時(安否確認)連絡方法の確立 ※保護者、教職員向け講習を開催し NTT 災害伝言板による通信方法を活用(J-anpi等) <p><u>イ 聴力障がい者への緊急情報保障の推進として文字情報システムを拡充する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 府教委と連携したシステムの継続的検討を 地域聴覚障がい者への情報発信の拠点づくり <p><u>ウ 防犯教育を推進し幼稚園、小学部、中学部の子ども達に合わせた防犯教育を実施する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 警察、生野区(地域まちづくり課)と連携した、防犯教室の開催(年6回) <p><u>ア 教育コミュニティーづくりで地域と交流</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園、小学部で地域幼稚園、地域小学校と交流(年8回) IKUNO ネイチャーランドを充実させ地域幼稚園、地域小学校児童と交流する(学校行事への招待等) <p><u>ア 感染症・食中毒防止、熱中症対策を進める</u></p> <ul style="list-style-type: none"> エピペン使用緊急時マニュアルを充実する。 エピペン講習会の実施(年1回) 医療的ケア委員会、アレルギー委員会、給食委員会の整備 安全な給食実施のための設備の良好な維持管理をはかる 	<p>ア 保護者向け学校教育自己診断項目「学校は体罰防止に取り組んでいる」の肯定率 81%を 90%以上</p> <p>イ 保護者向け学校教育自己診断項目「学校はいじめ防止等 人権尊重に基づいた教育をおこなっている」肯定率 85%を 85%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 生野聴覚版「いじめ予防プログラム」を平成 28 年度中に策定 <p>ウ 教職員向け学校教育自己診断項目「人権尊重に基づいた指導が行われている」の肯定率 85%を 85%以上</p> <p>エ 問題事象を発見し対応の遅れ“ゼロ”を実現</p> <p>ア 児童生徒向け学校教育自己診断の災害時対応に関する項目の肯定率 79%を 85%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員向け学校教育自己診断の危機管理に関する項目の肯定率 81%を 85%以上 全クラス(全保護者)での災害伝言板の安否確認を履行(登録率 60%) <p>イ 未設置の教室等への文字情報システムの配備計画を策定していく</p> <p>ウ 交通安全教室、不審者対策教室、薬物乱用防止講習等警察と連携し実施(年6回)</p> <p>ア 児童生徒向け学校教育自己診断の地域交流に関する項目の肯定率 75%を 80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> IKUNO ネイチャーランド内容を再検討(年1回) <p>ア エピペンマニュアルの充実、講習会を実施し緊急時に対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 迅速に対応できる各委員会を活用するため設置する 安全な給食実施のための設備の確認(年2回) 	<p>(1) ア保護者の「学校は体罰防止に取り組んでいる」の肯定率は 91 となった (◎)</p> <p>(1) イ保護者の「学校はいじめ防止等 人権尊重に基づいた教育をおこなっている」の肯定率は 84% 「いじめ予防プログラム」は策定中 (○)</p> <p>(1) ウ教職員の「人権尊重に基づいた指導が行われている」の肯定率は 85% (○)</p> <p>(1) エ 問題事象を発見し対応の遅れ“ゼロ”では対応の遅れはなくなった (○)</p> <p>(2) ア児童生徒の災害時対応に関する項目の肯定率は 85% (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員向け危機管理に関する項目は 76%に (△) 全保護者での災害伝言板の安否確認の履行・登録率は今年度試行できず (△) (2) イ未設置の教室等への文字情報システムの配備計画は避難訓練時の活用で少し進んだ (○) (2) ウ警察との連携し実施(交通安全教室、痴漢対策、携帯のトラブル防止講習会等 7 回実施 (○) (3) ア児童生徒の地域交流に関する項目の肯定率はほぼ 74% (○) IKUNO ネイチャーランドでなくおもちゃの広場を開催 幼児児童が交流 (○) (4) ア エピペン講習会(参加型)を実施 先生方の意識向上 (○) 迅速に対応できる医ケア委、アレルギー委、給食献立委を立ち上げた。一つにまとめていく (○) 給食設備の確認補充の実施 (○)
	学力向上	<p>(1) 学習の充実のために ICT 機器を活用する</p> <p>(2) 基礎基本の学力を育成し高校・大学につながる学力の基礎を育てる</p> <p>(3) キャリア教育への取り組み</p> <p>(4) 生活指導を充実させる</p> <p>(5) 図書館の環境整備と読書活動を推進し言語獲得に活かす</p>	<p>ア 学校経営推進費を受け、電子黒板、書画カメラ等 ICT 機器を活用した視覚を重視したわかる授業を展開(全学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部の効果的な教室に電子黒板・書画カメラを設置し(10台)授業を展開する。 デジタル教科書(国語・音楽において9学年)を導入。 ICT 機器(電子黒板、デジタル教科書)を用いた学習のスキルを高めるための研修会を実施し(年2回) ICT 機器活用への理解及び充実をはかる。 研究授業の実施(年1回) 校内無線 LAN の配備拡充 <p>ア 一人一人の基礎学力を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学習、長期休み中の補習・補充授業の充実を図る。 中学部での観点別評価に基づく指導を充実する <p>イ 学習意欲の向上をめざし各種検定へのチャレンジ、各種コンクール等の外部評価へ応募を積極的に推進する</p> <p><u>ア 多様な就学・進路選択の指導支援を幼稚園・小学部卒業時、中学部は入学時から進路支援を行う</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談、体験交流、見学会・説明会への参加等細やかな情報発信(1年中随時) 新たな高校入試制度に対応した進路指導の実施 <p>イ 各部に応じたキャリア教育を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアマトリックス(一貫したキャリア支援の構築)を作成 キャリア講演会を開催 個別の教育支援計画の様式を再検討し各学部の引継ぎに活用する。 中学部において「職業体験」を実施し進路指導に活かす。 <p>ア 生活指導・生徒指導の充実させるためにクラブ活動への意欲を高め基礎的な社会的ルールを身に着けることに活かす。</p> <p>ア 図書館の整備と図書活動の活性化のために蔵書数の増加、蔵書管理システムの校内共有化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本の場所がわかりやすい配本や新刊本のレイアウト等工夫する <p>イ 絵本の読み聞かせボランティアを活用し、読書活動の活性化を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部で読書推進計画の検討・策定。 	<p>ア 学校における教育の情報化の実態調査の ICT 活用指導力(授業)の項目で「できる」の回答 75%を 80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員「ICT 機器活用」電子黒板・書画カメラ、デジタル教科書の活用 90%以上 校内研究授業を実施(全校対象各部で実施)(年1回) 外部講師による機器活用講習会(年2回) <p>ア 児童生徒向け学校教育自己診断の授業に関する項目の肯定率 75%を 85%以上に</p> <ul style="list-style-type: none"> 小・中学部生徒の言語力を高める。各テストの結果の向上 <p>イ 外部模試、漢字検定、英語検定等を活用(児童生徒の3割)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国合奏コンクール入賞をめざす・絵画コンクール・読書感想文コンクール、作文コンクールなどに応募(児童生徒の3割) <p>ア 保護者向け学校教育自己診断の進路に関する項目の肯定率 84%を 85%以上</p> <p>イ 児童生徒向け学校教育自己診断のキャリア教育に関する項目の肯定率 72%を 75%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアマトリックスを検討・作成 個別の教育支援計画の様式を再検討 職業体験を実施(年1回) 職業体験先を開拓する(2~3社) <p>ア 生徒向け学校教育自己診断の部活動に関する項目の肯定率 68%を 75%以上に</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種クラブの大会にチャレンジ(全員が参加) 校内清掃活動、あいさつ運動等の実施(毎月) 生徒朝礼で情報発信(毎週1回) <p>ア より借りやすいシステムの構築</p> <p>イ 読み聞かせボランティアの活用(年12回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書感想コンクールなどに応募

府立生野聴覚支援学校

<p>専門性の向上</p>	<p>(1) 教員の授業力・資力の向上</p> <p>(2) 専門性の向上のために校内研究会を実施、校外での研修を受講し共有する</p> <p>(3) 専門性の発揮によりセンター的機能を充実</p>	<p>ア 教員の専門性・資力の向上をめざし授業研究を活発化し力量向上を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初任者・10年目経験者研究授業の実施(研究授業・公開授業の実施) ・ 校内新転任者研修会を実施と充実(年11回) ・ 教員の専門性向上のための研修環境の充実 ・ ICT活用能力・教材開発において教職員の聴覚障がい教育の専門性を向上させる <p>ア 全校研究会を行い全校的課題を研究する(聴覚障がい教育、保護者支援等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全校研究会を実施(年3回) <p>イ 専門的指導力の向上のために発音指導・聴能指導・言語指導・幼児児童生徒個々の課題を検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部署で発音研修会、聴能研修会等を実施(6回以上) <p>ウ 外部研究会・研修会に積極的に参加し専門性を向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育センター、普通小中学校の教科研等参加 ・ 発音発語研究会、近畿オーディオロジー研究会等へ参加 <p>ア 早期乳幼児の相談支援を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て講座、体験保育、夏季子育て講座を実施し聴覚障がいのある入幼児支援、その保護者支援を行う。 ・ 市町村福祉部との連携し支援を行う。 ・ 病院・保健所との連携を推進 ・ 病院保健所訪問を行い聴覚支援学校の役割、支援について説明(年15か所以上) <p>イ いくの聴覚言語センターの整備と充実によりセンター的機能を発揮する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通級指導を充実させ通常学級に在籍する児童生徒の支援を行う。理解啓発授業の実施により地域の学校に在籍する聴覚障がいのある子ども達への支援を行う。 ・ いくの聴覚言語センターとして広報に努め相談活動を充実させる。 ・ 地域支援部と連携し 地域支援を充実させる。 	<p>ア 研究授業の実実施回数の30%増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな研修内容の追加(校内各部署で手話、発音、聴能研修を実施のべ年5回) ・ ICT活用の研修会の実施(年2回) <p>ア 保護者向け学校教育自己診断の聴覚障がい理解に関する項目の肯定率91%を90%以上で継続を目指す</p> <p>イ 各部署で発音研修会、聴能研修会等を実施(6回以上)</p> <p>ウ 全教員の3割の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発音発語研究会の開催(年4回) ・ 近畿オーディオロジー研究会の開催(年3回)と参加 <p>ア 子育て講座を週2回、体験保育を年間10回、夏季子育て講座を6回実施し、子育て講座の保護者満足度の向上(参加者の2割増)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者向け学校教育自己診断の「医療と連携して指導にあっている」に関する項目の肯定率84%を85%以上 <p>イ 通級生の指導を行う(20~30名)、巡回相談、理解啓発授業の実施(のべ30回以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修参加者へのアンケート調査で内容に関する肯定率を80%以上 	<p>(1) ア研究授業の実実施回数は初任者、10年経験者、発音、重複、等11回 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部署で手話研修、幼稚部で発音聴能研修、小でICT活用研修(○) ・ ICT活用の研修会(年5回)(○) <p>(2) ア保護者の聴覚障がい理解に関する項目の肯定率90%(○)</p> <p>(2) イ幼稚部小学部で発音聴能研修会 中学部がそこに参加(6回)(○)</p> <p>(2) ウ発音発語研究会(年3回)、近畿オーディオロジー研究会(年3回)の開催と参加 (○)</p> <p>(3) ア子育て講座(週2回)(月1回)体験保育(年10回)夏の子育て講座(年5回)参加者600人程 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の「医療と連携して指導にあっている」項目の肯定率82%(○) <p>(3) イ通級生の指導(28名)巡回相談、理解啓発授業の実施(のべ30回以上) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修参加者のアンケート調査で内容に関する肯定率80%以上(○)
<p>学校運営の改善</p>	<p>(1) 情報発信を再構築し保護者の学校活動への参画を促す</p> <p>(2) 学部間交流事業を拡充し幼稚部・小学部・中学部一体の学校をめざす</p> <p>(3) 校内組織の改善に取り組む</p>	<p>ア 情報提供の見直し保護者への情報提供を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校便り」の内容を充実させ情報提供媒体として活用。 ・ 学校HPの情報提供の充実と更新率の向上に取り組む。 <p>ア 学部を越えた交流行事を実施し、課題解決に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中合同部活動を実施し小学部児童が中学部生活への理解が深まるよう取り組む。 ・ 幼小の交流、幼中の交流を活発化する。 <p>ア 分掌改編等による機能的な組織づくりとして、新8分掌の課題を運営委員会で検討し、より機能的な組織づくりに再編していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 首席・部主事の定期会議を活用し学校運営を迅速に活性化していく。 	<p>ア 保護者向けの学校教育自己診断の情報提供に関する項目の肯定率78%を85%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校便り」の発行を年6回に ・ 学校HPの情報更新回数を20%向上 <p>ア 新たに小・中合同の行事に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合同体育祭を計画・実施 ・ 幼小、幼中の交流の実施(年6回) <p>ア 当面2か年を見据えた校務分掌体制を確立しより良い校務分掌に再編する。</p> <p>年度末に再編の総括を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員向け学校教育自己診断の校内組織の一体化に関する項目の肯定率63%を70%以上 ・ 首席・部主事定期会議開催(月2回) 	<p>(1) ア保護者の情報提供に関する項目の肯定率78%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校だより」の発行年7回(○) <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校HPの情報更新20%向上にならず(△) <p>(2) ア小中合同体育祭を実施(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼小、幼中の交流は年1回(△) <p>(3) ア校務分掌の再編により体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の校内組織の一体化に関する項目の肯定率64%(○) <ul style="list-style-type: none"> ・ 首席・部主事定期会議を開催(月2回)学校運営の課題を検討した(○)